

平成 22 年 8 月 10 日  
三峰川総合開発工事事務所  
横山ダム工事事務所  
新丸山ダム工事事務所  
設楽ダム工事事務所  
浜松河川国道事務所

## お 知 ら せ

### 1. 件 名 平成 22 年度ダム事業費等監理委員会の開催結果について

2. 概 要 ダム建設事業は、調査計画段階から用地補償、生活再建、ダム本体施工を経て管理段階に至るまで、長い期間と多額の事業費を必要とするプロジェクトであり、事業者としてこれまでも増してより一層コスト縮減、工期短縮に取り組んでいくことが求められています。

このため、コスト縮減策や工程管理等について、ご意見をいただくため平成 20 年 8 月 5 日に「ダム事業費等監理委員会」を設置しました。今年度は平成 22 年 7 月 13 日に委員会を開催し、平成 22 年度における事業執行内容についてご意見をいただきましたので、お知らせします。

3. 資 料 ○平成 22 年度ダム事業費等監理委員会の概要

4. 同時配布 中部地方整備局記者クラブ、岐阜県政記者クラブ、三重県政記者クラブ、美濃加茂市記者クラブ、可児市記者クラブ、大垣市記者クラブ、豊橋市政記者会、新城市政記者クラブ、伊那市役所記者クラブ、駒ヶ根市役所記者クラブ、飯田市役所記者クラブ、浜松市政記者クラブ、磐田市メディアセンター

5. 解 禁 指定なし

6. 問合せ先 国土交通省中部地方整備局河川部河川計画課

課長補佐 森 隆好

TEL 052-953-8148

国土交通省中部地方整備局三峰川総合開発工事事務所

副所長 杉山 勉

TEL 0265-98-2924

国土交通省中部地方整備局横山ダム工事事務所

副所長 新高 庸介

TEL 0585-52-2211

国土交通省中部地方整備局新丸山ダム工事事務所

副所長 木村 秀治

TEL 0574-43-2780

国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所

副所長 川瀬 宏文

TEL 0536-23-4331

国土交通省中部地方整備局浜松河川国道事務所

副所長 水野 益宏

TEL 053-466-0111

## 平成22年度 天竜川ダム再編事業費等監理委員会の概要

天竜川ダム再編事業では、コスト縮減策や工程管理等についてご意見をいただくため、平成21年度に「天竜川ダム再編事業費等監理委員会」を設置しました。今年度は、平成22年7月13日に委員会を開催し、平成22年度における事業執行計画等について、ご意見、ご質問をいただきました。主なご意見、ご質問は、以下のとおりです。

- 佐久間ダム進入路工事は安全対策の追加により当初計画していた事業費から更にコストが増えることになるのかとの質疑があり、当初計画より増額となる見込みである旨を説明しました。
- 総事業費約790億のうち最も事業費の多い工種は何かとの質疑があり、土砂バイパストネルの施工費が最も大きい旨を説明しました。
- ダム本体に係る工事はあるかとの質疑があり、ダム本体の工事は、放流能力を確保するため、放流設備に係る工事が必要であり、現在具体的な検討を進めている旨を説明しました。
- コスト縮減について設計段階で十分に検討するとともに、事業に関する情報を定期的に提供してほしいと意見を頂きました。
- 美和ダムで実施した現地実証実験の説明に対して、これは三峰川総合開発事業の実験なのかとの質疑があり、現地実証実験は、天竜川ダム再編事業の吸引工法を検討するための実験であり、三峰川総合開発事業の実験ではない旨を説明しました。
- 佐久間ダムの土砂バイパストネルはどれくらいの効果があるのかとの質疑があり、排砂による流下土砂量は、河口で現状より年平均約60万m<sup>3</sup>増加するとの試算しており、そのうち海浜を構成する砂分は、年平均約20万m<sup>3</sup>増加すると試算しており、事業による効果は今後も詳細に検討していく旨を説明しました。
- 排砂バイパストネルの事業効果に見合った事業投資規模となっているのかとの質疑があり、天竜川ダム再編事業は、既設の佐久間ダムを活用し、新たに洪水調節機能を確保して、天竜川中下流部の洪水被害の軽減を図ることを目的としている。新たに確保した洪水調節機能の維持にあたっては、佐久間ダム貯水池に流入する土砂を排砂バイパストネルによってダム下流に流下させる。以上より、天竜川ダム再編事業は洪水被害の軽減による治水効果に見合った事業投資規模となっている。なお、排砂バイパストネルによって流下した土砂が、海岸侵食の抑制に寄与すると期待している旨を説明しました。

※ 平成21年度の天竜川ダム再編事業費等監理委員会は、現地視察を行いました。

## 天竜川ダム再編事業費等監理委員会 運営要領

### 第1条（総 則）

本要領は、「中部地方整備局ダム事業費等監理委員会設置要領（平成21年4月23日付、国部整河計第11号）」第6条の規定に基づき、天竜川ダム再編事業費等監理委員会（以下、「委員会」という。）の運営に関する必要な事項を定めるものである。

### 第2条（組 織）

1. 委員会は、別紙の委員をもって構成する。
2. 委員長は委員の互選によって選出し、委員会を総括するものとする。
3. 必要に応じ、委員長の指名する委員を追加することができる。

### 第3条（所掌事項）

委員長は、事務所長からの要請を請けて委員会を招集するものとする。委員会は、原則として以下の事項について、確認を行うとともに意見を述べるものとする。なお、これ以外の事項について、事務所長から要請のあった場合には、確認を行うとともに意見を述べるものとする。

- 1) 事業の進捗状況
- 2) 当該年度の予算と事業内容
- 3) 当該年度の目標とスケジュール
- 4) コスト縮減策の具体的な内容

### 第4条（委員の任期）

委員の任期は、原則として委嘱のあった日から5年間とする。なお、5年以内に当該事業が完成した場合は、管理に移行する日までとする。

### 第5条（事務局）

委員会の事務局は、浜松河川国道事務所開発工務課に置くものとする。

### 第6条（委員長への委任）

この要領に定めるもののほか必要な事項は、委員長が委員会に諮って定めるものとする。

### 附 則

この運営要領は、平成21年11月30日から適用する。

この運営要領は、平成22年 7月13日から適用する。

## 天竜川ダム再編事業費等監理委員会・名簿 委 員

区 分	専門分野	氏 名	所 属
学識経験者	マスコミ	まえだ ひろし 前田 弘司	中日新聞社論説室／論説委員
	交通工学	まつい ひろし 松井 寛	名城大学理工学部建設システム工学科/教授
	ダム維持管理	まつお なおき 松尾 直規	中部大学工学部都市建設工学科／教授
	コンクリート工学	ろくごう けいてつ 六郷 恵哲	岐阜大学工学部社会基盤工学科／教授
	公認会計士	たかぎ まさき 高木 正樹	高木正樹税理士事務所
関係機関等		ながしま いくお 長島 郁夫	静岡県交通基盤部河川砂防局長
		しもこし ひとし 下越 仁	電源開発(株)中部支店長代理

### 事務局等

区 分	氏 名	所 属
中部地方整備局	山内 博	河川部広域水管理官
	盛谷 明弘	浜松河川国道事務所長

# 天竜川ダム再編事業について

国土交通省 中部地方整備局  
浜松河川国道事務所

# 天竜川ダム再編事業の概要

## 事業の概要

### ○事業の概要

- 場所 佐久間ダム：（右岸）きたしたら とよね こまだて 愛知県北設楽郡豊根村古真立（天竜川水系天竜川）  
はままつ てんりゅう さくま さくま  
 （左岸）静岡県浜松市天竜区佐久間町佐久間
- 目的 洪水調節（天竜川中下流部の洪水防御）
- 工期 平成16年度～平成33年度完成予定
- 事業費 約790億円

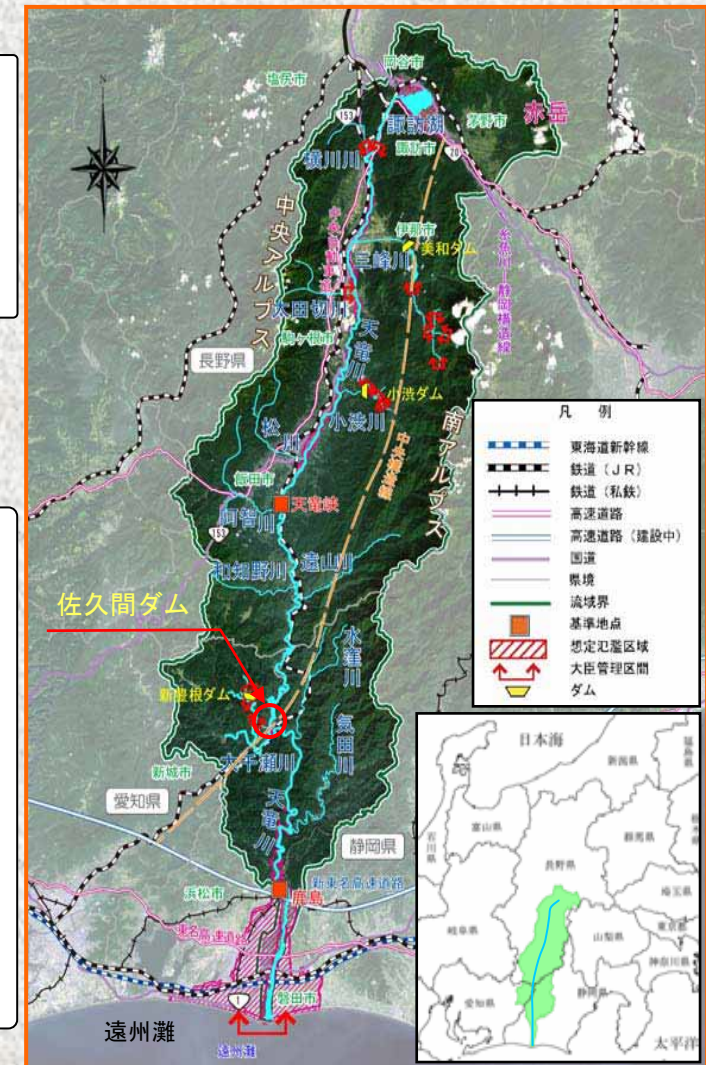
## 事業の現状

- 経緯
- |         |                          |
|---------|--------------------------|
| 平成16年4月 | 実施計画調査着手                 |
| 平成18年5月 | 天竜川ダム再編事業技術工法検討委員会設立     |
| 平成18年7月 | 天竜川ダム再編事業環境検討委員会設立       |
| 平成20年1月 | 天竜川ダム再編事業技術工法検討委員会審議終了   |
| 平成20年3月 | 天竜川ダム再編事業環境検討委員会審議終了     |
| 平成20年7月 | 天竜川ダム再編事業排砂工法実証実験検討委員会設立 |
| 平成20年7月 | 天竜川水系河川整備基本方針策定          |
| 平成21年3月 | 天竜川水系河川整備計画案を提示          |
| 平成21年4月 | 建設事業着手                   |
| 平成21年7月 | 天竜川水系河川整備計画策定            |

### ○予算執行状況

- ・平成22年度当初 8.006億円
- ・平成22年度まで 約5.3億円（進捗率7%）

## ○流域位置図



# 天竜川ダム再編事業の概要

## 事業のメニュー

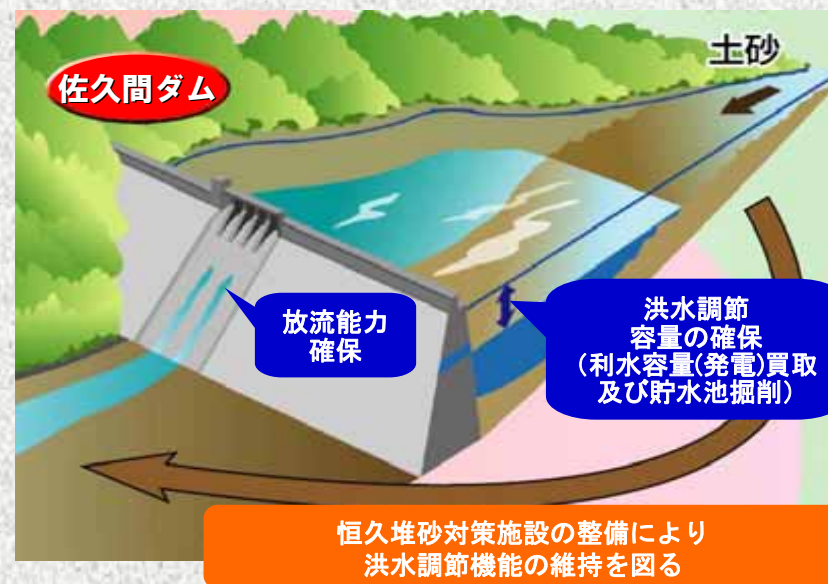
### ○洪水調節

- ・制限水位を設定し、洪水調節容量を確保する。
- ・制限水位 (EL. 255.0m) からサーチャージ水位 (EL. 262.2m) の間に堆積している土砂の掘削を行う。
- ・ダム貯水池の水位をコントロールできるように放流能力を確保する。

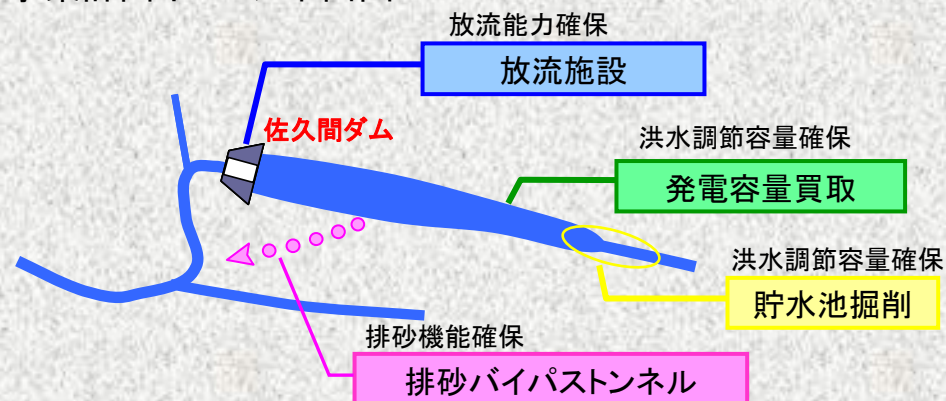
### ○恒久堆砂対策

- ・ダム貯水池への堆砂を抑制する恒久堆砂対策施設を整備し、洪水調節機能の維持を図る。

天竜川ダム再編事業のイメージ図



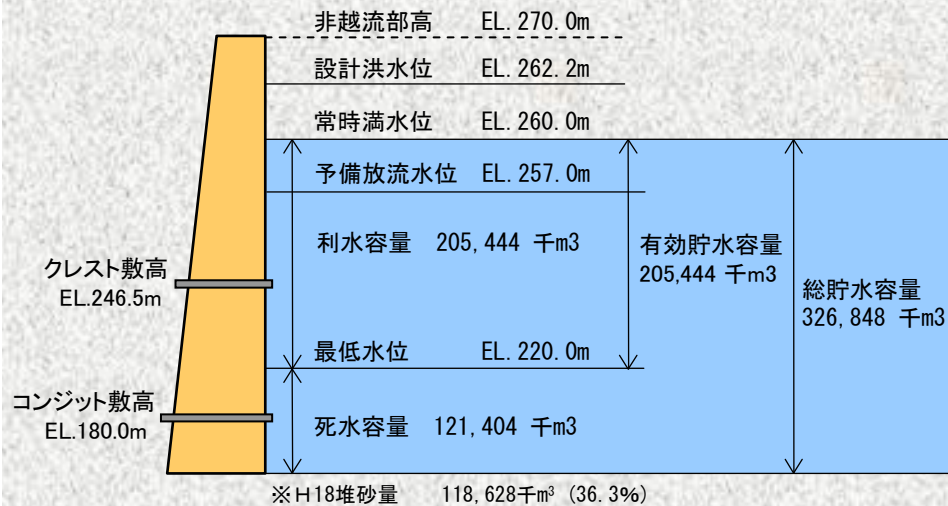
事業計画イメージ平面図



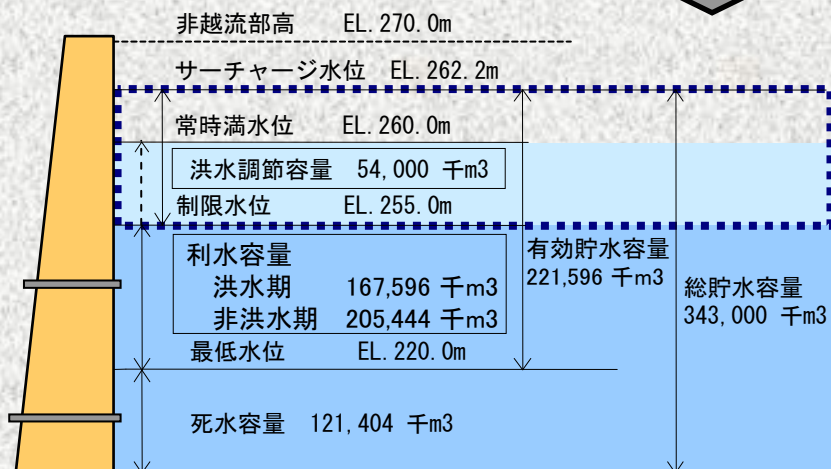
# 天竜川ダム再編事業の概要

## ダム標準断面図

＜現在の貯水池容量配分図＞



＜再編後の貯水池容量配分図＞  
 (洪水期：6/1～10/10)



ダム型式：重力式コンクリート

常時満水位：260.0m

堤高：155.5m

総貯水容量：洪水期 343,000千m<sup>3</sup>

非洪水期 326,848千m<sup>3</sup>

有効貯水容量：洪水期 221,596千m<sup>3</sup>

非洪水期 205,444千m<sup>3</sup>

洪水調節容量：54,000千m<sup>3</sup>

利用容量：洪水期 167,596千m<sup>3</sup>

非洪水期 205,444千m<sup>3</sup>



# 天竜川ダム再編事業の概要

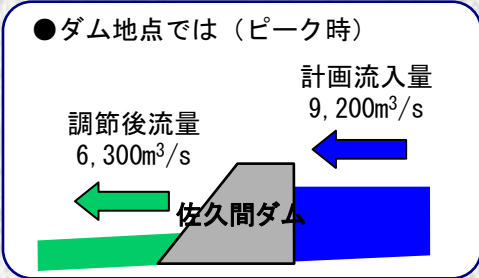
## 事業の効果

### ○洪水調節による効果

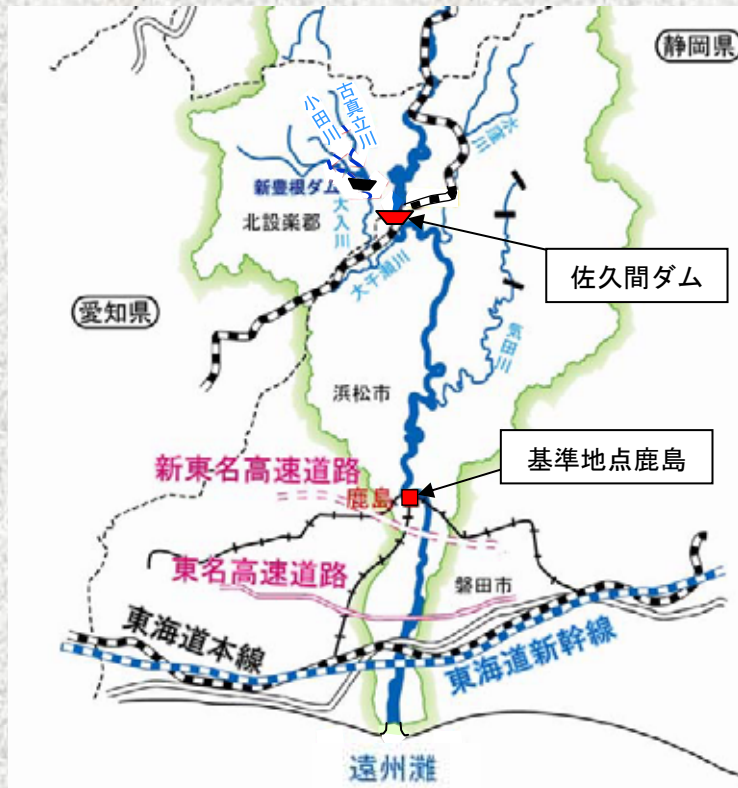
- ・ダム地点における計画流入量 $9,200\text{m}^3/\text{s}$ のうち $2,900\text{m}^3/\text{s}$ (ピーク流入時)を調節し、基準地点鹿島で約 $2,000\text{m}^3/\text{s}$ の流量低減と約 $1\text{m}$ の水位低下量を見込んでいる。

### ○恒久堆砂対策により期待される効果

- ・恒久堆砂対策によりダム地点における土砂移動の連続性が確保され、海岸侵食の抑制が期待される。



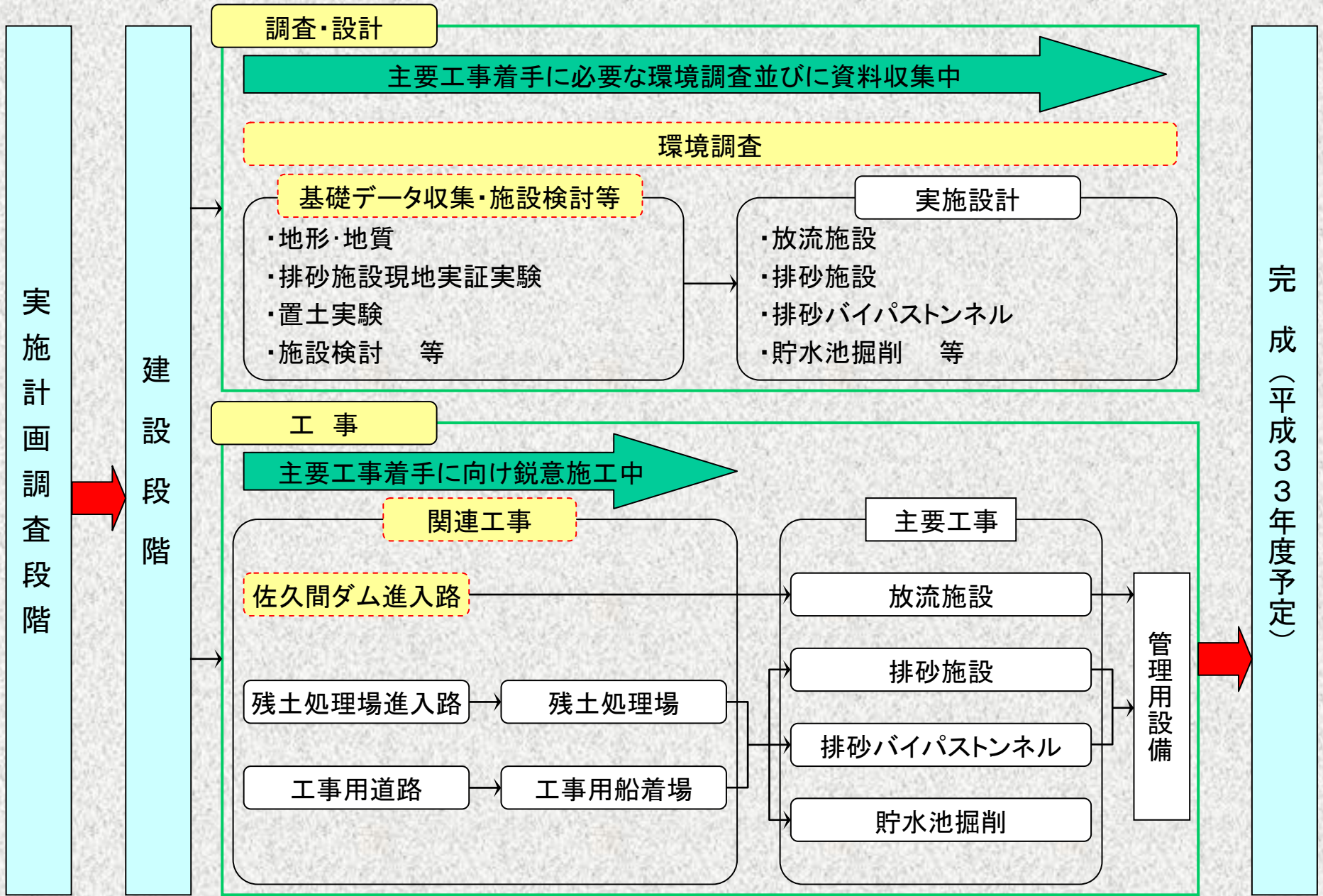
基準地点鹿島では  
 流量低減量 約 $2,000\text{m}^3/\text{s}$   
 水位低下量 約 $1.0\text{m}$



※流下土砂量のうち、造浜に寄与する $0.2\sim 0.85\text{mm}$ の砂成分の試算値

水系全体の流下土砂量の予測(試算)

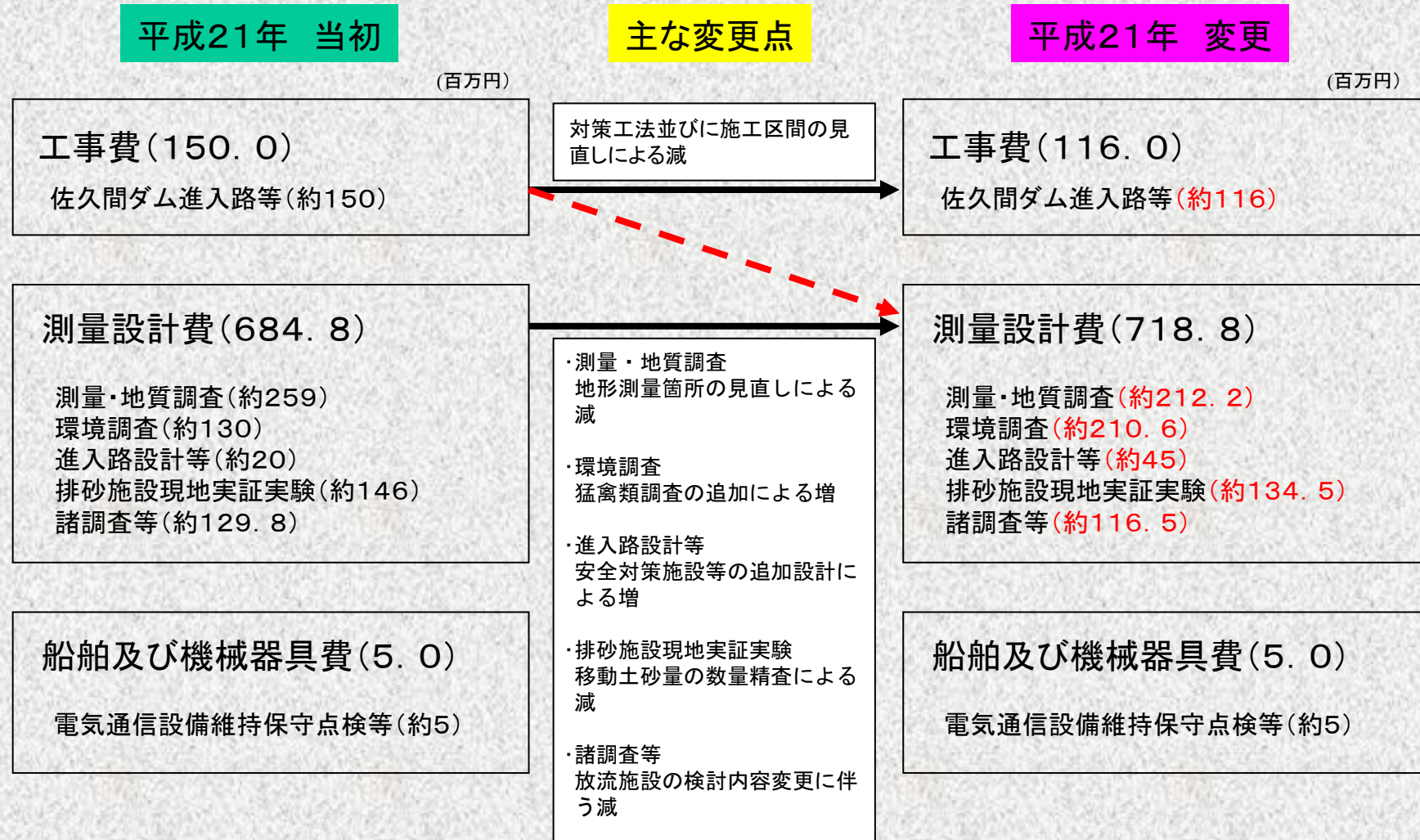
# 主要工種別予定表



# 平成21年度予算及び実施内容

## ○平成21年度予算額

・9.65億円 (累計 約45.4億円 約6%) ※予算額ベース



# 事業の進捗状況

## ○事業状況

・佐久間ダム進入路(落石防止網工等による安全対策)の進捗を図った。

用地取得 (工事用道路等)	0%
家屋移転 (残土処理場)	0%
工事用道路 (工事用船着場) 約3km	0%
残土処理場進入路 約6km	0%
佐久間ダム進入路 (放流施設) 約2.5km	約20%
主要工事及び関連工事	放流施設
	残土処理場
	工事用船着場
	排砂施設 排砂バイパストンネル 貯水池掘削
	管理用設備

 …関連事業

# 平成21年度 事業スケジュール管理表

## ○事業管理

平成21年度の繰越工事並びに業務は、以下のとおり。

- ・ 佐久間ダム進入路工事、測量・地質調査…土砂崩落等による工事並びに調査区間の変更や対策工法検討で着手時期が遅れたため
- ・ 環境調査…調査エリアで希少猛禽類が確認され、繁殖期(12月から5月)での猛禽類調査が必要となったため
- ・ 排砂施設現地実証実験…降雨による貯水池の水位上昇のため実験機器等の撤去が遅延したため

分類	件名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
工事費	佐久間ダム 進入路等	当初													
		最終													
測量 設計費	測量・地質調査	当初													
		最終													
	環境調査	当初													
		最終													
	進入路設計等	当初													
		最終													
	排砂施設現地 実証実験	当初													
		最終													
	諸調査等	当初													
		最終													
船舶及び 機械器具費	電気通信設備 維持保守点検等	当初													
		最終													

■	当初期間
■	変更期間

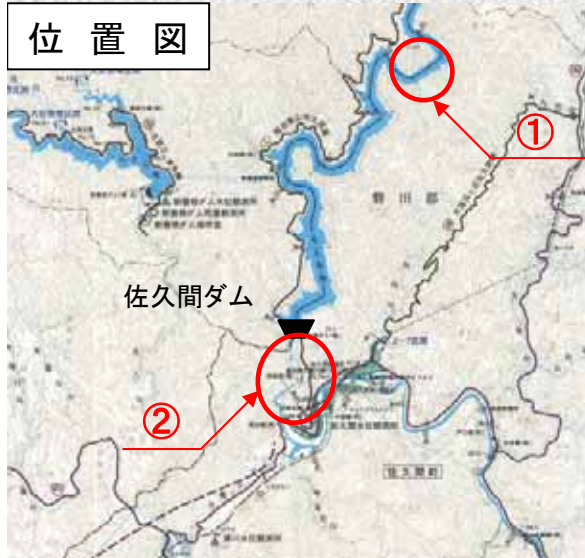
## ○コスト縮減

- ・ 現在は、調査・検討段階である。佐久間ダム進入路工事は安全対策(落石防止網工等)を実施している。
- ・ 今後、主要工事並びに工事用道路等の設計段階から、コスト縮減が図られるよう努める。

# 工事並びに調査予定箇所における土砂崩落状況

- 平成21年7月並びに10月の降雨により、工事並びに調査予定箇所で土砂崩落等が多数発生し、道路が崩落土砂で埋没した。

位置図



①調査用進入路

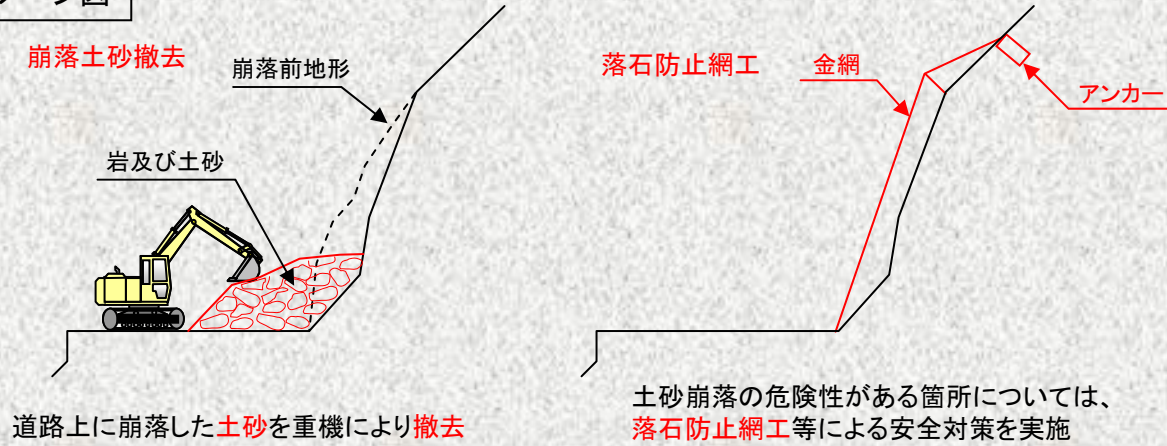


②佐久間ダム進入路



# 佐久間ダム進入路

施工作业イメージ図



位置図



落石防止網工 施工状況(金網設置)



落石防止網工 施工完了

# 平成22年度予算、実施内容及びスケジュール

## ○平成22年度予算額

・8.006億円

平成22年 当初

(百万円)

工事費(160.0)

佐久間ダム進入路(約160)

測量設計費(634.7)

測量・地質調査(約290)  
環境調査(約140)  
施設検討(約50)  
諸調査等(約154.7)

用地及び補償費(0.2)

進入路工事立木補償(約0.2)

船舶及び機械器具費(5.7)

電気通信設備維持保守点検等(約5.7)

## ○平成22年度 事業目標

- ・現地調査のための佐久間ダム進入路を整備する。
- ・施設検討のための測量・地質調査を推進する。
- ・事業の実施に伴う影響等を把握するため、環境調査を実施する。
- ・地質調査並びに諸調査結果を踏まえた施設検討を実施する。

## ○平成22年度 スケジュール

分類	件名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
工事費	佐久間ダム 進入路	当初													
		最終													
測量 設計費	測量・地質調査	当初													
		最終													
	環境調査	当初													
		最終													
	施設検討	当初													
		最終													
	諸調査等	当初													
		最終													
用地及び 補償費	進入路工事 立木補償	当初													
		最終													
船舶及び 機械器具費	電気通信設備 維持保守点検等	当初													
		最終													